

# 消費構造における被服及び履き物の地域・年度別動向

加 藤 恵 子

## Tendencies in Regional and Yearly Charges for Clothes and Footwear in the Structur of Consumption

Keiko KATÔ

### は じ め に

家計調査の消費支出のうち、家具、家事用品<sup>1)</sup>について報告をおこなったが、今回は被服及び履き物について地域別・年度別・費目別に考察をおこない、その違いを若干みいだしたので、ここに報告する。

### 調 査 方 法

総理府家計調査年報の昭和48年(以下昭和を省略)から57年までの10カ年間の資料を主として用いた。日本を北から札幌、仙台、新潟、東京、名古屋、大阪、広島、高知、鹿児島、那覇の10地域を対象とした。56年1月に家計調査の消費支出項目の分類が10大費目に改訂され、旧分類の中で被服費の中に入っていた室内装備品、寝具類、家事雑貨、家事サービスなどは、家具・家事用品へ移動し、品目により遡及計算されたりしたため、38年より55年までは遡及計算された資料<sup>2)</sup>を使用した。

各年度および地域により、消費支出額は違うため、地域別・年度別に割合を算出して考察を行なった。

### 結果および考察

#### 1 地域別・年度別、被服及び履き物が消費支出に占める割合

被服及び履き物は身体保護のためのものを対象とし、身を装うものは諸雑費の「身の回り用品」に含まれた。被服及び履き物は、和服、洋服、シャツ・セーター類、下着類、生地・糸類、他の被服、履き物類、被服関連サービスの8分類されている。

図1に示したように、消費支出に占める割合は、全平均値8.8%である。

地域別にみると、高知が最も高く、年平均10.0%を占め、ついで広島の9.3%である。最低は那覇の7.3%、名古屋8.4%である。

年度別にみると、48年が10.1%と最も高く、ついで49年から51年は9.0%代、52年から54年は8%代、55年から57年は7%代へと順次支出割合は減少してきている。

支出金額からみると、10年間を通し上位、下位各3位までに入っている地域をみると、上位は東京9回、広島、新潟各6回である。一方、下位は那覇10回、鹿児島8回である。57年の東

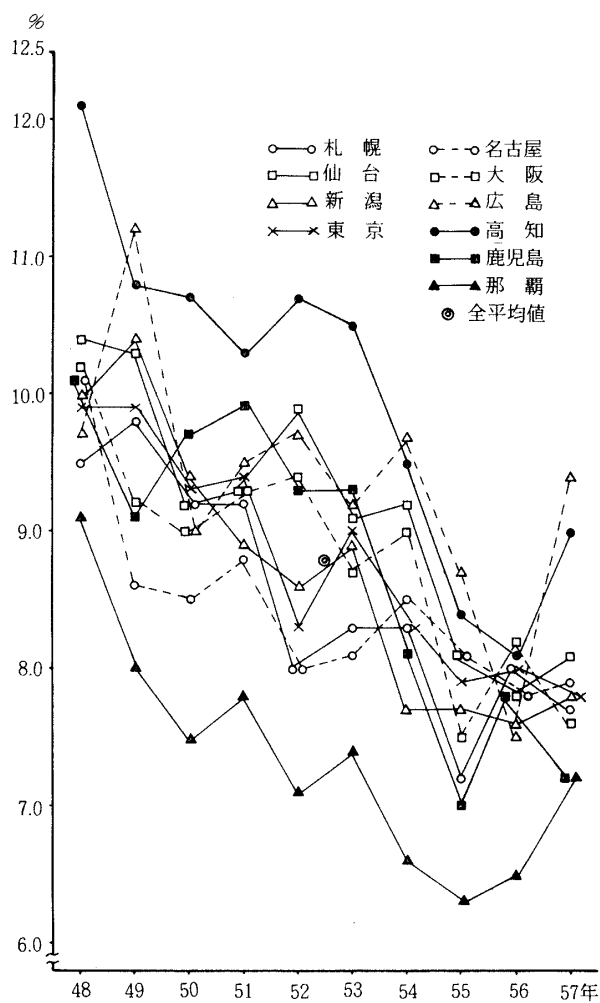


図1 地域別、年度別、被服及び履き物が消費支出に占める割合

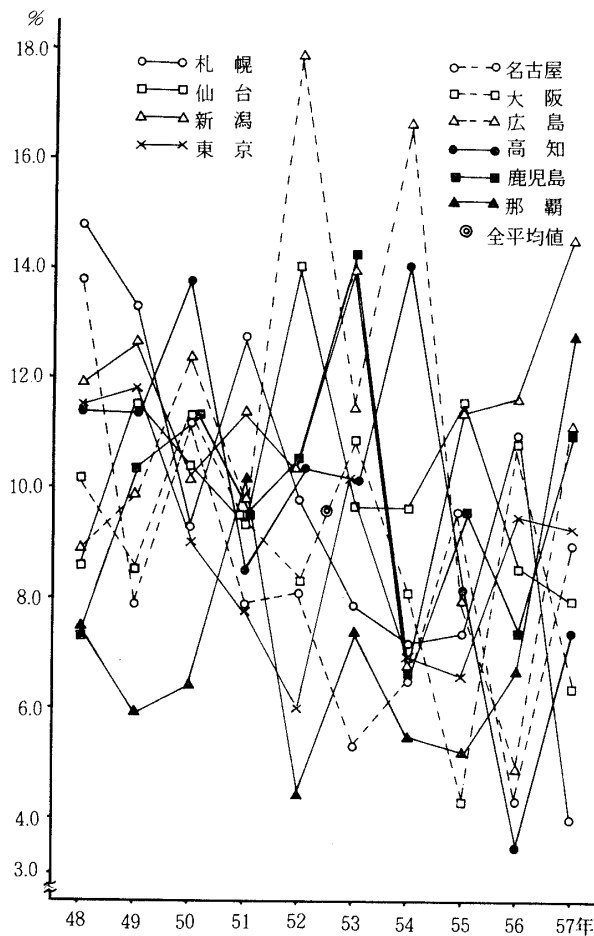


図2 地域別、年度別、和服が被服及び履き物に占める割合

京の支出額は26万8350円、那覇18万0031円でその差が約8万円みられる。

被服は身体を保護する役割をもっており、気候の低い札幌が突出しているかと考えがちであるが、消費支出に占める割合や金額面からみても、上位を占めていなかった。このことは被服が「身体の保護」の役割から「装う」面に重点がおかれ、防寒衣料を重要視しなくなったためと思われる。それは屋内では暖房のゆき届いた設備、屋外は自動車の普及などの結果と推察される。一方、平均気温も他地域に比べ暖かい那覇は各年度とも、消費支出に占める割合、支出金額についても最下位を占めている。

F検定の結果、地域、年度ともに高度に有意の差が認められた。

## 2 地域別、年度別、和服が被服及び履き物に占める割合

旧分類と新分類は同じで、男子着物、和服類、婦人の絹着物、他の着物、帯、コート、和服用下着、他の和服類と子供用和服で、日本古来の衣服を対象とし、寝間着は含まない。

図2に示したように、和服に占める割合は全平均値9.5%である。

地域別にみると、年平均仙台、新潟、広島が10%以上を占め、ついで9%代が札幌、高知、鹿児島である。最下位是那覇の7.2%であった。各地域とも高低幅が大きく変化、広島のように51年から55年にかけて顕著にみられた。

年度別にみると、48年の10.6%が最高で順次減少傾向を示している。56年に年平均7.7%に達したが、57年にはやや増加し、9.3%を示した。これは10地域のうち、6地域が56年より57年に上昇した結果と思われる。

支出金額をみると、52年と54年の広島はずば抜けて高率を示しているが、いずれも約42,000円を支出しており、低い那覇と比較すると、約5,900円で7倍強である。そこで48年の札幌と57年の新潟はほぼ同率で最高であるが、金額の差が10年間にどのくらい違いがみられるかをみると、48年では20,496円が、57年では38,647円とその差18,151円で約1.8倍の上昇率を示している。

F検定の結果、地域に有意の差が認められた。

### 3 地域別、年度別、洋服が被服及び履き物に占める割合

男子背広(三つ揃, 上下組, モーニング)上着, スボン, オーバー, レインコート, 学生服, 他の洋服, 婦人服(ワンピース, ツーピース, ニットスーツ), オーバー, レインコート, 学生服, 他の洋服と各男女とも7分類され, 対象は中学生以上の洋服である。また子供服は小学生以下の子供用洋服で子供服(ズボン, スカート, レンコートを含む)オーバー, 乳児服の3分類である。

図3に示したように、全平均値は37.9%である。

地域別にみると、那覇は47年から56年の9年間は最も高いが、56年がやや減少傾向を示し、57年には第2位で、いずれの年よりも低く41.8%であった。年平均値は45.9%で他9地域の年平均35~38%であるのに対し、那覇は10~8%の高率を示している。

年度別にみると、48年が34.7%と最低で、年々増加傾向を示し、54年は40.2%で最高を示したが、10カ年間で地域間の高低差が4.4ポイントと最も少なくみられた。これは、54年は比較的1, 2月が暖かったこと、梅雨明けが遅れたこと、秋の気温が高かったこと

などから地域間の差が最も縮まったものと思う。翌年の55年は那覇は0.2ポイントしか上昇しないが、那覇をのぞく9地域では、9.4ポイントで54年の約2位も伸展している。これは冬衣料の購入期の10~12月が比較的寒かったことが影響したものと推察する。そこで冬衣料の代表

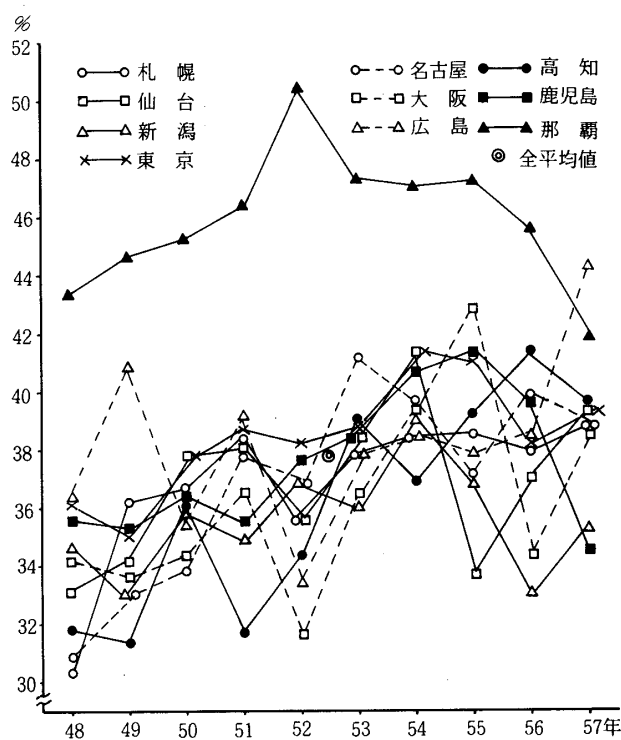


図3 地域別、年度別、洋服が被服及び履き物に占める割合

表1 男子・女子・子供のオーバの支出が洋服に占める割合

地域 年度	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	高知	鹿児島	那覇
54年	8.7	10.5	5.2	7.3	4.5	6.1	5.7	5.1	4.1	1.6
55年	12.3	12.9	11.8	8.8	5.2	6.5	6.1	5.6	8.6	2.4

的なオーバーについて表1に示したように男子、女子、子供の支出金額を54年、55年にピックアップして洋服に占める割合をみた。いずれの地域も55年が支出割合が高くみられた。また札幌と那覇を比較すると、那覇の約5倍は支出している。

F検定の結果、地域、年度ともに高度に有意の差が認められた。

#### 4 地域別、年度別、シャツ・セーター

##### 類が被服及び履き物に占める割合

シャツ・セーター類の中着を対象として、男子、婦人、子供別にワイシャツ類、セーター類の8つに小分類してある。

図4に示したように、全平均値は12.8%である。

地域別にみると、那覇は年平均10.7%で9カ年間最下位で、56年が最下位から2番目であった。鹿児島は年平均11.8%で4カ年間最下位、その他の年は下位から3～4番目である。ついで高知、新潟12%代、その他の地域は13%代である。最高は東京の13.8%であった。

年度別にみると、48年より年々支出割合は高くなり、48年から50年は11%代、51年から54年は12%代、55年から56年は14%代、57年は15.2%代と増した。

支出額からみると、48年は平均15,871円であるが、57年は36,124円で約2.2倍の額になっている。支出割合の高い東京をみると、48年は19,020円が57年には44,422円で約2.3倍である。また最下位の那覇は48年は10,476円が57年には24,035円と約2.2倍になっている。

F検定の結果、地域、年度ともに高度に有意の差が認められた。

#### 5 地域別、年度別、下着類が被服及び履き物に占める割合

男子下着はズボン下、パンツ、腹巻、ねまき、婦人下着はブラジャー、キャミソール、コルセット、パンティー、スリッパ、肌着、腹帯、婦人ねまき、子供下着は1歳以上小学生以下の子供服として肌着、シュミーズ、パンツ、腹巻、子供ねまき、乳児下着は1歳以下のおむつ、よだれかけであるが、紙おむつは保健医療用品に、貸しおむつは被服関連サービスに移行した。

図5に示したように、全平均値は8.1%である。

地域別にみると、那覇は48年、49年、52年から55年の6カ年間は最も高く、年平均9.2%で、ついで高いのが大阪の8.7%である。

最も低い地域は札幌の年平均7.3%で48年から51年と53年、56年の6カ年間であった。ついで仙台の年平均7.6%で、寒い地域の方が低率を示している。そこで最高の那覇と最低の札幌の差をみると、1.8ポイント、ついで大阪と仙台をみると1.1ポイントである。

年度別にみると、年平均最高は55年の8.4%、最低は50年の7.6%でその差はわずか0.8ポイントである。最高と最低の幅が最も広い年は52年で3.7ポイントであった。一方最も差の少ない年は前年の51年で2.0ポイントである。

支出額をみると、57年の名古屋が21,366円と最高で、2万円台が東京、新潟、大阪の順に並

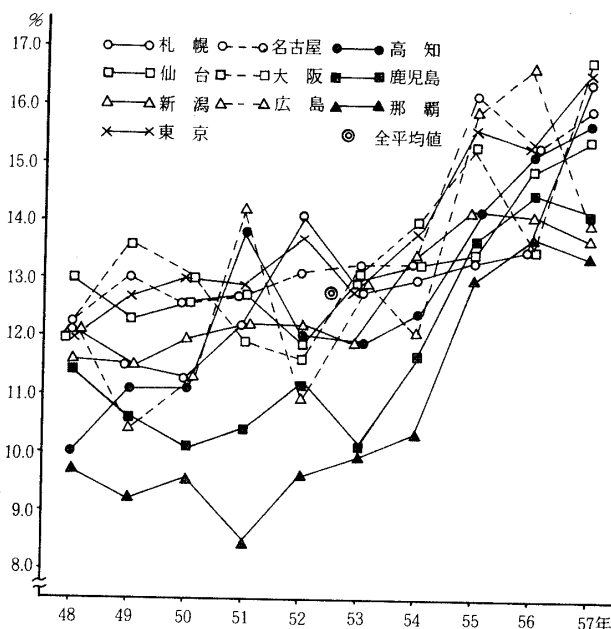


図4 地域別、年度別、シャツ・セーター類が被服及び履き物に占める割合

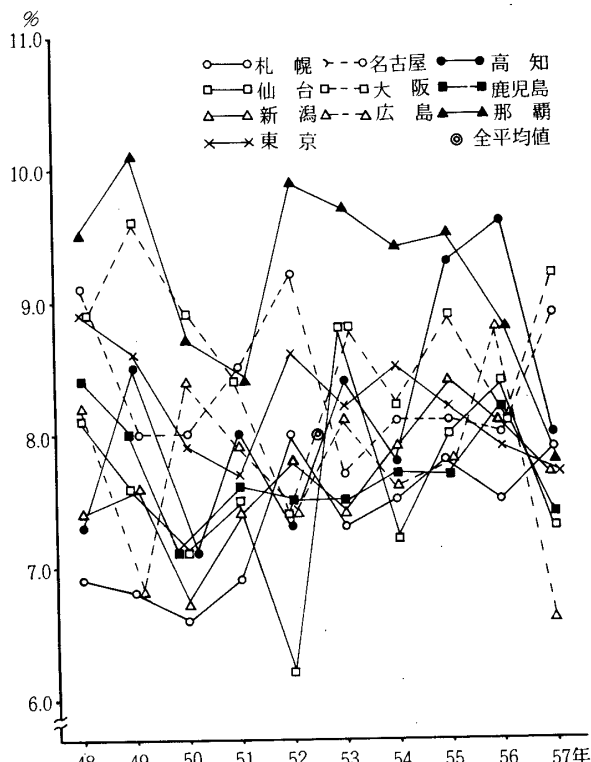


図5 地域別、年度別、下着類が被服及び履き物に占める割合

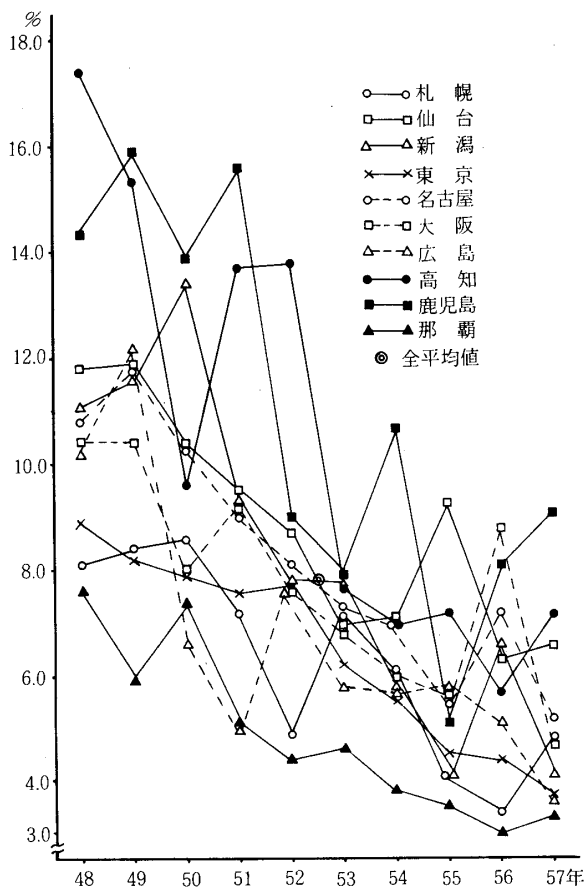


図6 地域別、年度別、生地糸類が被服及び履き物に占める割合

び、ついで18,000円までが広島、高知、札幌、17,000円代が仙台、14,000円代が鹿児島、那覇が14,197円の最低であった。以上のように下着類は年ごとに支出割合は変化し、同一地域でも時には、2.0ポイントからの高低差が現われて変動の大きい品目であり、予算のたてにくい項目である。

F検定の結果、地域に高度の有意の差が認められた。

#### 6 地域別、年度別、生地・糸類が被服及び履き物に占める割合

原則として被服用の原材料、ボタンを含み、和服用生地一反、半反、単位で売られている反物、洋服生地、縫い糸、毛糸、ゴム紐、ボタン、インサイドベルト、運針用布地などを対象とする。

図6に示したように、年平均値は7.9%である。

地域別にみると、鹿児島は年平均11.0%と最も高く、ついで高知の10.5%、仙台の8.9%である。一方低い方は那覇の4.8%、札幌6.2%である。

年度別にみると、年々平均値は低下し、48年、49年は11.1%、50年、51年は9.0%代、52年は7.0%代、53年、54年は6.0%代、55年から57年は5.2%と約1.0ポイントずつ低下し、10年間で約半分以下になった。10カ年間の減少率の高い地域は広島、新潟、高知である。一方減少率の少ない地域は札幌、鹿児島、仙台である。

55年以降やや安定し、急激な変化をみせず、この状況で推移するか、さらに緩慢な減少が続くか、今後の動きを注目したい。何故ならここに含まれている品目は、家庭における被服製作が行なわれるか、あるいは社会化していくかの分岐点の一要因であると思われるためである。

F検定の結果、地域、年度ともに高度の有意の差が認められた。

## 7 地域別、年度別、他の被服が被服及び履き物に占める割合

帽子、ネクタイ、えり巻、手袋、男子くつ下、婦人ソックス、子供くつ下、たび、その他羽織のひも、半えり、エプロンなど被服を着装の時に必要な品を対象とする。

図7に示したように、年平均6.3%である。地域別にみると、札幌は56年を除き、各年とも最高を示し、年平均7.9%、ついで仙台の6.7%で、新潟から高知までの6地域は6.0%代、鹿児島と那覇は5.0%代へと支出割合は順次南下するにしがたい減少した。

年度別にみると、最も高低幅の広いのは、57年であるが、札幌を除いた9地域でみると、幅の増減が最も少ないのも57年で、1.1ポイントの間を占め、年平均5.1%である。52年以降多少の増減はみられるが、ほぼ横ばいの状態で今後も6.0%前後を持続するものと推察する。

F検定の結果、地域・年度ともに高度の有意の差が認められた。

## 8 地域別、年度別、履き物が被服及び履き物に占める割合

男子革靴、ケミカル靴、婦人革靴、ケミカル靴、大人雨靴、運動靴、他の子供ぐつ、ぞうり、下駄、サンダル、その他の履き物などを含む。

図8に示したように、全平均値は9.1%である。

地域別にみると、那覇は最も高く、年平均10.3%を占め、50年と57年は各々前年度より低下したが、50年と51年、52年と53年には同率を示し、54年以降56年までは、上昇している。最低は高知の年平均8.2%で那覇との差2.1ポイントである。上記2地域を除いた8地域でみると、最も高低差がないのが50年で、その幅わずか1.0ポイントの中に集中している。同じような形態が57年にもみられる。

年度別にみると、高低幅の大きいのは、52年で4.1ポイント、ついで49年の4.0ポイント、54年の3.8ポイントである。一方最も少ないのは、57年の1.7ポイント、48年の1.8ポイントである。54年までは各地域、年度ごとに変化がいちじるしくみられるが、55年以降やや安定した形態で推移している。しかも57年は過去10年間で最高が那覇の10.3%から最低の高知の8.2%。

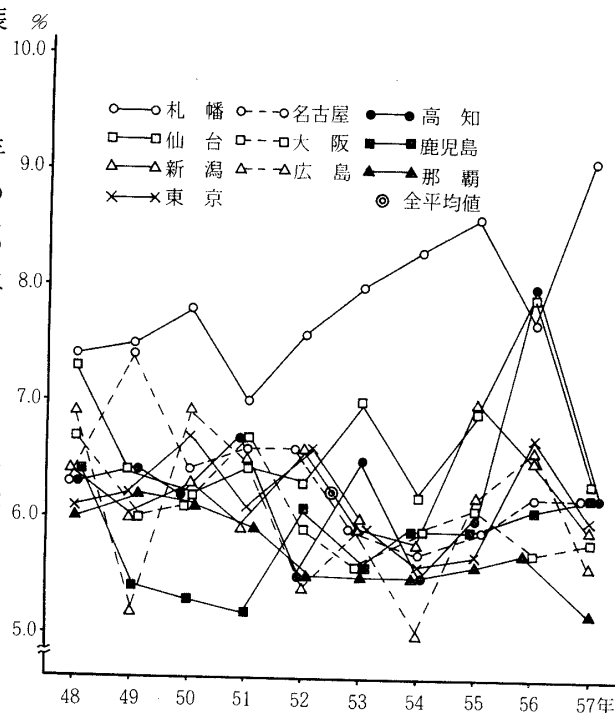


図7 地域別、年度別、他の被服が被服及び履き物に占める割合

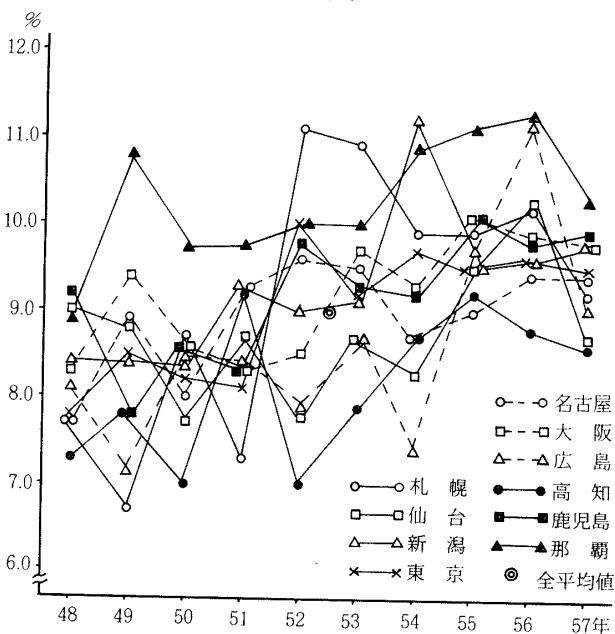


図8 地域別、年度別、履き物が被服及び履き物に占める割合

2%で、その差は2.1ポイントになっているが、今後の推移を見守りたい。

F検定の結果、地域、年度ともに高度の有意の差が認められた。

## 9 地域別、年度別、被服関連サービスが

### 被服及び履き物に占める割合

被服費に含まれる物品に関するサービスで仕立代、洗たく代、被服や履き物の修理代、被服の賃借料などであるが、布団の借り賃は家具・家事用品へ、スキー・スケートの借り賃は教養娯楽へ品目替えされている。

図9に示したように全平均値は8.4%である。

地域別にみると、仙台を除き、札幌の9.6%を最高に名古屋までが9%代を示し、大阪、広島、高知は8%代、鹿児島と仙台が7%代、那覇が最低の年平均6.2%である。名古屋は全平均値より、いずれの年も高くみられた。

年度別にみると、55年と57年は7%代で他の年は8%代で、年により多少の高低がみられた。10カ年間の支出割合の変化は少ないが、細かく地域別にみると、北の地域の方が支出割合が高い。

図1から図9までの図中の◎印は全平均値を示した。表1は10カ年間全てに平均値より上部を占めた場合「上」、下部を占めた場合

「下」、全平均値を中心に上下した場合「中」として示したものである。消費支出に占める被服及び履き物の割合は、高知が上位を占め、高い消費傾向を示している。洋服に那覇が上位を占めているが、これは図10に示したように、和服とシャツ・セーターの占める割合が他地域に比べ、最少であることがこのような結果を示したものである。これは、和服は気温の高い那覇には適さないこと、シャツ・セーター類も同じような理由で、比較的購入が少なく、洋服類を購入することが多い結果と推察する。下着類は札幌が下位でその他の地域は中位である。近年の衣服着装傾向として、寒暖の差で下着を着ることは少なく、衛生上や美容上で着装する面がみられること、冬季の室内の保温の完備で衣服が防寒に絶対的な必要のもでなくなりつつあることを示している。生地・糸類は那覇の下位は各材料を購入して裁縫する層が少なくなりつつあることを暗示している。他の衣服の那覇は下位であるが、この品目の中にえり巻き、手袋といった衣料が含まれており、これらをみると、那覇は札幌の1/4と少ない。被服関連サービスは名古屋が「上」、鹿児島、那覇が「下」を示しているが、名古屋はサービス項目を多く使用し、那覇は利用が少ない結果の現れである。

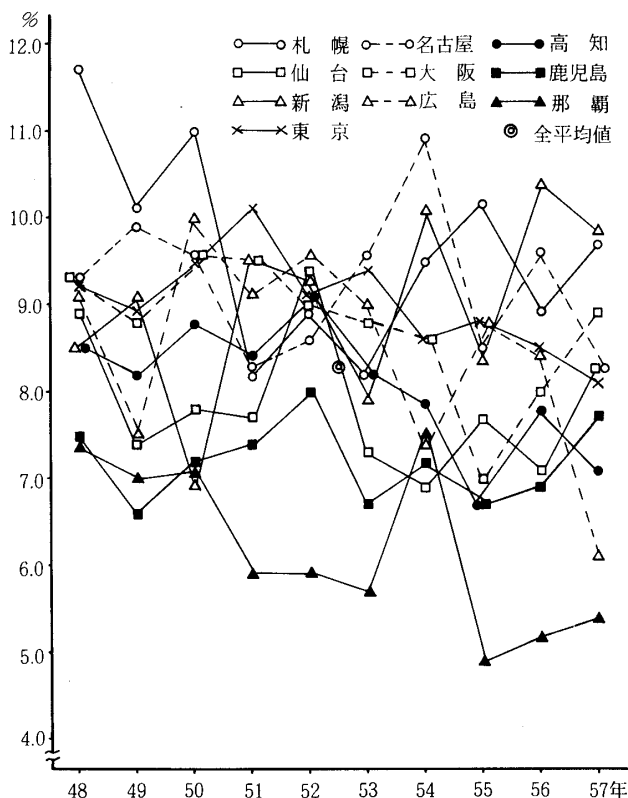


図9 地域別、年度別、被服関連サービスが被服及び履き物に占める割合

## ま と め

家計調査資料を主として調査した結果、

- 1) 被服及び履き物に占める割合は全平均8.8%である。

1表 項目別区分別地域別評価

項目	上										中										下									
	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	高知	鹿児島	那覇	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	高知	鹿児島	那覇	札幌	仙台	新潟	東京	名古屋	大阪	広島	高知	鹿児島	那覇
被服及び履き物							○				○	○	○	○	○	○	○		○	○										
和服											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
洋服									○		○	○	○	○	○	○	○	○	○											
シャツセーター											○	○	○	○	○	○	○	○	○											
下着類											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
生地・糸類											○	○	○	○	○	○	○	○	○											○
他の被服											○	○	○	○	○	○	○	○	○											○
履き物											○	○	○	○	○	○	○	○	○											
被服関連サービス				○							○	○	○	○		○	○	○											○	○

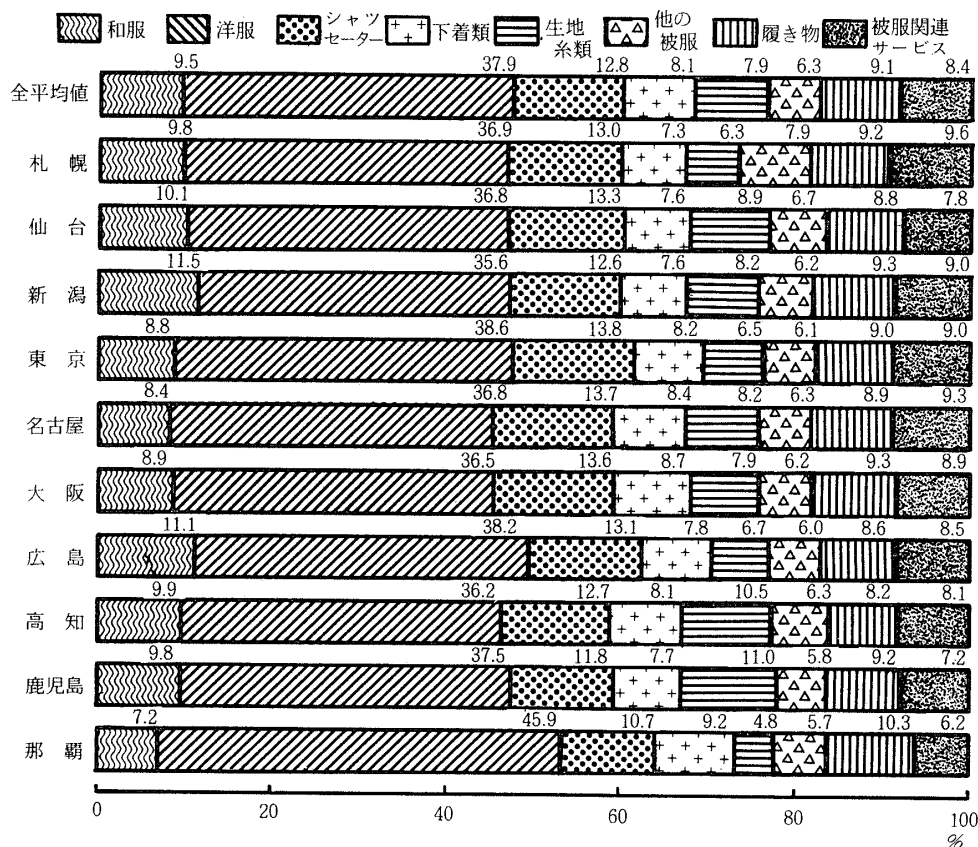


図10 地域別、中分類における全平均値の割合



- 2) 支出割合をみると、和服は年ごとに変動が激しい。また洋服類は年々増加傾向を示している。シャツ・セーター類は近年増加傾向を示しつつあるが、生地・糸類は減少率は激しく高知などは約 1/3 に減少した。地域別にみると洋服類と下着類は那覇が高い支出を示している。
- 3) 札幌と那覇の寒暖の違いが被服面の金銭支出にはっきりと現れなかった。
- 4) 被服購入は気候の寒冷による影響を受ける。

以上のように近年「身体を保護」する役割より、「装う」面に重点が置かれた衣生活運営のように思われる。それは種々な要因が考えられるが、今後住生活の充実により、さらに「衣」の面も変化していくものと思われる。

### 参 考 文 献

- 1) 加藤恵子：名古屋女子大学紀要，30，81～87 (1984)
- 2) 総理府統計局：昭和 38 年～55 年の家計，新収支項目分類による遡及結果 (1981)
- 3) 総理府統計局：昭和 56 年，57 年，家計調査年報 (1981，1982)